

# 水害に備える



▲消防局HP

問合せ先/薩摩川内市消防局予防課 ☎(22)0135



令和元年東日本台風(台風19号)、令和2年7月豪雨、令和3年7月豪雨、令和の時代に入り、毎年のように水害が発生し、日本各地のみならず、薩摩川内市内でも甚大な被害を被りました。この時季、台風や線状降水帯、異常気象などにより、水害がいつどこで発生するかも分かりません。日頃から、河川の氾濫や土砂崩れの危険箇所の把握に努めるなど、**自分の身は自分で守る**という意識を高めましょう。また、防災行政無線により、「**高齢者等避難**」や「**避難指示**」などの**避難情報**が出された際は、早めの避難を心掛けるようにしましょう。

## 災害前の準備・確認

### もしもに備えて確認

- 防災マップで家や勤務先などの周囲の危険性を知る。
- 浸水する場所や急な崖など無い、安全な避難ルートで行くことができる避難場所を確認。
- 非常持出品の確認。
- 外出していた時の連絡方法、最終的な避難場所を決めておく。



## 避難直前の行動

### 情報収集

- 気象、災害、避難情報をテレビ、ラジオ、インターネット、防災行政無線などで集めましょう。



### 避難に適した服装

- 服装は動きやすい長袖・長ズボンで、長靴は中に水が入ると動きにくくなるので、脱げにくく履き慣れた靴で。
- 持ち物はリュックで両手を自由に。

### 状況を確認し早めの避難

- 避難は浸水する前に行うのが基本です。浸水の程度により、避難ができない場合があります。
- 暗くなると周囲の状況が見えづらくなります。明るいうちに早めの避難が安全です。

## 避難時の行動

### 避難経路に潜む危険

- 浸水の場所を通らないといけない時は、棒状の物で路面の状況、水深を確認。流れがある場合は浅くても危険な時があります。
- 急な斜面などを避けて避難する。



### 避難に危険を感じたら

- 避難するのに危険と感じたら無理をせず、近くの高い場所や丈夫な建物に避難することも選択肢の一つです。



## 薩摩川内市消防局マスコットキャラクターが誕生しました!

【プロフィール】  
名前の由来：市鳥であるメジロは「ハナシ」と鹿児島弁で呼ばれ、その「ハナシ」と市の花の「カノコクリ」を組み合わせて「コリハナ君」と命名されました。

- 誕生日 11月9日
- 性格 しつかり者でたくましい
- 趣味 甑島に遊びに行くこと
- 好きな食べ物 果物
- 特徴 帽子にカノコクリのマークがついています。甲高く活気あふれる声で、市民に「火の用心」を呼び掛け、安全安心のまちづくりのため薩摩川内市を飛び回ります。



【コリハナ君モチーフ・デザイン作成者】  
川内商工高等学校インテリア科  
2年生 楢山ありささん(美術部)



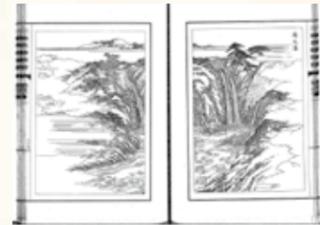
マスコットキャラクター決定式 (R4.5.26)

## 深発見 歴史文化 遺産

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

第九回  
樋脇郷つうりずむ  
『三國名勝図会』で巡る  
江戸薩摩紀行

昨年7月号の「甑島つうりずむ」に続き、今回も江戸時代の文献『三國名勝図会』から樋脇の名所を紹介いたします。



江戸時代の「湯元瀑」  
(『三國名勝図会』より)

「美人湯」として呼び声の高い市比野温泉。薩摩藩2代藩主島津光久(寛陽公)が市比野で狩を樂しむ折に浴したのが始まりとされています。

その後だんだんと名湯のうわさが広まり、「或いは百人に近し」となるほど、にぎわい、打たせ湯施設も設けられたと書かれています。

温泉場を流れる市比野川には「湯元瀑」と呼ばれる滝が絵で紹介されています。



現在の「湯元瀑」

滝といえば、市比野川を上流にさかのぼると「藤本の滝」に行き着きます。ここでは二連落差30mの神秘的な滝で、「薩摩華厳」とも称されます。藤本の滝は『三國名勝図会』には載っていませんが、涼を求めにいかでしようか。



石祠の中の馬頭観音

江戸時代以降、その名前から馬や家畜の守護仏として広がり、供養のため数多く石仏が置かれました。

駐車場から滝までの途中には「馬頭観音」が鎮座しています。



『三國名勝図会』には、他にも三島神社や玉淵寺など今も当時の石塔の残る神社仏閣や、樋脇城などの旧跡も紹介されています。

この夏、今に残る樋脇郷の名所を江戸時代の様子を想像しながら巡る旅に出掛けてみてはいかがでしょうか。

■文責・問合せ 社会教育課 文化財G(中央公民館内)  
☎(22)7251

## VOL.15 防災トピックス

### 水害時の避難

### 安全に避難するために

水害時に避難する際は、車?徒歩?

水害時は、徒歩での避難が大原則となります。

車は、想像以上に水に弱く、走行中、道の冠水状態はよく見えません。水深0.1mで、車のブレーキは効きにくくなり、0.3mでエンジンは停止し、0.5mで車は浮き上がるといわれています。水圧でドアや窓も開かなくなるので、脱出も難しくなります。

雨具は、雨がっぱを着用し、帽子などをかぶりましょう。靴は、長靴を履くと水かきが増し、たとき水が入ってきて、歩きにくくなるので、スニーカーなどを履いて避難しましょう。

また、雨の中を避難すると、着ている物が濡れ、体温の低下を招くので、避難先ですぐに着替えられるように準備しておきましょう。

雨の中の避難。服装は?

徒歩での移動は、足元が不安定になりがちなので、両手は空くように荷物はビニール袋などに入れ、リュックに入れましょう。

服装は、季節を問わず長袖、長ズボン。できるだけ肌を出さないようにして、けがを防ぎましょう。

避難先に向かうときに注意することは?

避難中に道路が膝下まで冠水していたら、そこは通らないようにしましょう。突然深みにはまったり、障害物につまづいたりする恐れがあります。無理をせず、明るい時間帯に近くの高い建物などに避難しましょう。

### 《避難の時にはこんなスタイルで》



※イメージ